

各教科等チェックシート

学部・学年	氏 名
年	

高等部版

教科等	内 容	児童生徒												
		甲中部 (段階)	小学校 (学年)					中学校 (学年)			高等部 (段階)			
		1	2	1	2	3	4	5	6	1	2	3	1	2
国語 ※ (特)2段階 同観点 	知識及び技能													●
	A 聞くこと・話すこと													●
	B 書くこと													●
	C 読むこと													●
社会 (地歴公) 	知識及び技能	●												
	ア 社会生活 (参加) のきまり	●												
	イ 公共施設 (の役割) と制度	●												
	ウ 地域の安全 (国土、自然環境)	●												
	エ 産業と生活	●												
	オ 我が国の地理や歴史 (国土、国)	●												
	カ 外国の様子	●												
算数・数学 ※ (特)2・3段階 同観点 	A 数と計算 (数と式)	●												
	B 図形	●												
	C 変化と関係、測定 (関数)	●												
	D データの活用	●												
	数学的活動	●												
理科 (小学校3～6年 A 物質・エネルギー B 生命・地球)	A 生命	●												
	B 地球・自然	●												
	C 物質・エネルギー	●												
音楽 	A 表現													●
	B 鑑賞													●
図画工作 (美術)	A 表現													●
	B 鑑賞													●
技術・家庭 (小学校 家庭)	A 家族・家庭生活 (中 技術分野)													
	B 衣食住の生活 (中 家庭分野)													
	C 消費生活・環境													
職 業	A 職業生活													●
	B 情報機器の活用	●												
	C 産業現場等における実習													●
職業・家庭 (家庭)	A 職業分野 家庭・家庭生活	●												
	B 家庭分野 衣食住の生活	●												
	B 家庭分野 消費生活・環境	●												
保健体育 (体育) 	A 体づくり運動													●
	B 器械運動													●
	C 陸上運動 (陸上競技)													●
	D 水泳運動 (水泳)													●
	E 球技													●
	F 武道													●
	G ダンス													●
	H 体育理論													●
	H 保健													●
情報	A 情報社会の問題解決													●
	B コミュニケーションと情報デザイン													●
	C 情報通信ネットワークとデータの活用													●
外国語 	知識及び技能													●
	思考力・判断力・表現力等													●
外国語活動 ※(2)														
特別の教科道徳※(1)														
総合的な学習の時間	総合的な探求の時間													
特別活動														



授業者から
 知的障害教育の専門性を高める意味でも、生徒の実態を丁寧に見ていくのにこのチェックシートは有効である。

授業者から
 各教科等チェックシートを使用し、生徒一人一人の実態を丁寧に捉えることにより、各教科等の指導における配慮点などを検討するヒントになる。

自立活動フローシート



学部・学年 _____ 氏名 _____

記載者から

6区分を意識して実態把握することで、「健康の保持」で鼻の調子が悪いときに集中力がなくなることに気付き、授業中や日常生活の中でも「健康の保持」に注意しながら接することができた。

発達の状態、発達や経験の程度、物事に対して積極的、頑張り屋
収集した情報を自立活動の区分に即し

実態把握	健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
	・健康状態は良好であるが、鼻の調子が悪いと、時折頭痛があったり、集中が続きなくなったりする。	・何事も積極的に取り組もうとするが、うまくいかないときにイライラしたり、自分ではできない人間だと責めたりすることもある。	・おおむね良好であるが、思ったことを口にしてしまうことがある、トラブルになることがある。	・聴覚での情報収集は難しく、視覚的な支援によって理解を促すことができる。 ・周囲のことが気になり、集中力が持続しない。		

いくつかの指導目標の中で優先する目標として

3年後にめざす姿	<ul style="list-style-type: none"> ○就職するために必要な知識や技能を高めることができる。 ○相手の気持ちを考えることができ、良好な人間関係を構築できるようになる。 ○自分の思い通りにならなくても我慢したり、自分で気持ちを落ち着かせたりすることができる。
----------	---

長期目標(年間)	<ul style="list-style-type: none"> ○集中して物事に取り組むことができる。(話を聞く、作業に集中する等) ○朝や授業の準備など、自分で行うことができる。
----------	---

指導目標を達成するために必要な項目の選定

	健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
選定した項目	①生活のリズムや生活習慣の形成	①情緒の安定	①他者とのかかわりの基礎	①保有する感覚の活用	①姿勢と運動・動作の基本技能	①コミュニケーションの基礎的能力
	②病気の状態の理解と生活管理	②状況の理解と変化への対応	②他者の意図や感情の理解	②感覚や認知の特性への対応	②姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用	②言語の受容と表出
	③身体各部の状態の理解と養護	③障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲	③自己の理解と行動の調整	③感覚の補助及び代行手段の活用	③日常生活に必要な基本動作	③言語の形成と活用
	④障害の特性の理解と生活環境の調整		④集団への参加の基礎	④感覚を総合的に活用した周囲の状況の把握	④身体の移動能力	④コミュニケーション手段の選択と活用
	⑤健康状態の維持・改善		⑤無言や行動の手掛かりの形成	⑤無言や行動の手掛かりの形成	⑤作業に必要な動作と円滑な遂行	⑤状況に応じたコミュニケーション

授業者から

このフローシートを活用することで、本人を多面的に捉えることができ、集中する時間が増えるなどして個別の指導計画、学習指導案につなげることができた。

コピーして利用を

選定された項目を関連付け具体的な指導内容を設定

具体的な指導内容	・ていねいな言葉遣いの習得のため、学校生活の中で先生や友達に敬語で話したり、言葉の使い方について学習する。	・感情のコントロールをする力が必要なため、気持ち高ぶったときや落ち着かなくなったとき、自分でコントロールができたり、気持ちを言葉にすることができるようになる。	・午前中いっぱい集中して作業に取り組むことができる。
----------	---	---	----------------------------

この内容で授業に取り組んだ。

指導場面(各教科・単元名)	教科等	単元名等	教科等	単元名等	教科等	単元名等
	専門	基本的な敬語の使い方を覚えよう	ST	なりたい私たちを考えよう	専門	生地織り

※ 特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編(幼稚部・小学部・中学部)より抜粋及び参照。(P. 160~163)

総合的な探究の時間（ST） 学習指導案

日 時
場 所
授業者



1 単元名 「なりたい私たちを考えよう ―自己調整力編―」

2 単元について

特別支援学校高等部学習指導要領「総合的な探究の時間」では、高等学校学習指導要領第4章に示すものに準ずるとされている。高等学校学習指導要領第4章「総合的な探究の時間」では、探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力の育成を掲げている。

今年度より総合的な探究の時間（ST）では、「したい・なりたい自分」についてステージアップカードを使い、課題解決学習に取り組んでいる。学年ごとのテーマ（【ステージアップカードのポイント】）として、1年次では自己理解（【コミュニケーション】【自己調整力】）、2年次では働く（【作業能力】【生活力】）3年次では余暇（【自己実現力】）を達成目標としている。1年生活技術科では、日々の生活や一日生活の振り返りシートを使い、積極的に取り組んでいる。様々な課題を解決する姿は理解しつづける。

授業者から

自立活動の内容を本校では、「自立へのステージアップ表」と関連づけ、さらに言葉とイラストで表した「ステップアップカード」（ステカ）と結びつけることによって、生徒と細かく確認することができた。

本単元では、5月にステージアップカードを使って立てた個人目標を振り返り、1年次達成である【コミュニケーション】【自己調整力】の2つの観点にしぼって、クラスとして「なりたい姿」や「その方策」を考える。それぞれの観点で選んだ小項目が同じ生徒が多いこと、方策も似ているところから、グループ活動を取り入れ、学級全体でテーマを絞り、みんなで考えていく学習を行う。グループ内の友達や他のグループの考えを聞くことで、他者の考えを受け入れること、仲間と考えることによって、自分とは異なった見方・考え方が広がることを期待としている。一人で考えることが難しい生徒に関しては、友達の考えを聞き取り、自分の考えを持つことをねらいとしている。また、自己肯定感を高めるために、役割を設け、その役割を果たすことで、達成感を味わう。

授業者から

自立活動フローシートの実態把握をもとに、日頃から言葉を掛けたり、授業等で配慮したりすることで、本人が自分の苛立ちの理由を理解し、自己に向き合うことができるようになってきた。

3 生徒の実態

	生徒の様子	
A	<ul style="list-style-type: none"> 学習内容が分からないで考えたり、考えを相手に伝えたりすることができない。 周りが気になり、集中が続かないところがある。 友達に対して、きつい言い方になってしまう時がある。 	<p>何をやるのか指差しをしたりして伝える。</p>